

## 教科書の調査研究報告書

安芸高田市・山県教科用図書採択地区合同調査委員会

校種	教科	教科用図書目録に掲載された教科書総数	本報告書の総ページ数
中学校	美術	3	10

調査研究の観点及び各教科書の特徴

発行者 観点	9 開隆堂	38 光村	116 日文
基礎・基本の 定着	<p>1 題材の目標等の示し方 ○題材を通して、身につけたい力を学習の3つの目標として、「知識や技能に関する目標」、「思考力・判断力・表現力に関する目標」、「学びに向かう力に関する目標」をマークとともに示している。</p> <p>2 [共通事項]を視点とした学びの示し方 ○「学習のポイント」や学習の進め方を示すコーナーに、[共通事項]に着目するよう促すコメントを載せている。</p> <p>3 形や色彩、材料や用具の取扱い等の定着を図るための工夫 ○巻末の「学びの資料」に、形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法等に関する資料を掲載している。</p>	<p>1 題材の目標等の示し方 ○題材名の下に、題材で身につける力を目標として、「表現」と「鑑賞」の領域ごとに示している。 ○活動のきっかけとなる問いや手立てを、「鑑賞」と「表現」のアイコンとともに示している。</p> <p>2 [共通事項]を視点とした学びの示し方 ○[共通事項]を視点とした活動を促す文を、「表現」と「鑑賞」の活動のはじめに載せている。</p> <p>3 形や色彩、材料や用具の取扱い等の定着を図るための工夫 ○巻末の「学習を支える資料」に、形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法等に関する資料を掲載している。</p>	<p>1 題材の目標等の示し方 ○題材で身につけたい力を3つの「学びの目標」として、「造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標」、「発想や構想、鑑賞に関する目標」、「主体的に学習に取り組むための目標」をマークとともに示している。 ○題材名とともに、学習する目的を示している。</p> <p>2 [共通事項]を視点とした学びの示し方 ○題材ごとに、[共通事項]に着目するよう促す文を「造形的な視点」の吹き出しで示している。</p> <p>3 形や色彩、材料や用具の取扱い等の定着を図るための工夫 ○巻末の「学びを支える資料」に、形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法等に関する資料を掲載している。</p>

発行者 観点	9 開隆堂	38 光村	116 日文
主体的に 学習に 取り組む 工夫	<p>1 興味・関心を高めるための工夫</p> <p>○冒頭に、表紙と連動した「発見と創造」【1】「探究と継承」【2・3】と題するページを設けている。</p> <p>○作家や生徒の作品とともに、生徒の活動の様子を写真で示している。</p> <p>○作品全体を大型図版で掲載し、作品全体を拡大したり、一部を原寸大で示したりしている。</p> <p>2 表現と鑑賞の関連を図った学習活動</p> <p>○表現と鑑賞のページをそれぞれ独立して示している。</p> <p>3 生活や社会の中の美術の働きを実感するための工夫</p> <p>○生活や社会とのつながり、美術の役割について考えるきっかけとなる写真等を掲載している。</p> <p>○デザインや工芸等の題材のはじめに「デザインや工芸で学ぶこと」の特設ページを設け、生活の中の美術との関わりを具体的に示し</p>	<p>1 興味・関心を高めるための工夫</p> <p>○1年冒頭及び2・3年冒頭・巻末に谷川俊太郎氏の文章「うつくしい！」を載せている。</p> <p>○作家や生徒の作品とともに、生徒の制作過程を「みんなの工夫」と題して、作品の出来上がりまでを載せている。</p> <p>○作品全体を大型図版で掲載し、作品全体を拡大したり、一部を原寸大で示したりしている。</p> <p>○「最後の晚餐」のページの前に、消失点を探すためのトレーシングペーパーを添付している。【2・3】</p> <p>○一部の作品を材質の違う紙に印刷している。</p> <p>2 表現と鑑賞の関連を図った学習活動</p> <p>○一つの題材の中で、「表現」と「鑑賞」のアイコンを掲載し、相互に関連した学習の流れを示している。</p> <p>3 生活や社会の中の美術の働きを実感するための工夫</p> <p>○生活や社会とのつながりや美術の役割について考えるきっかけとなる写真等を掲載している。</p> <p>○デザインや工芸等の題材のはじめに「デザインってなんだろう？」の特設ページを設け、生活の中の美術の働きを一日の流れで示し</p>	<p>1 興味・関心を高めるための工夫</p> <p>○冒頭に「この教科書で学ぶみなさんへ・目次」を掲載している。</p> <p>○作家や生徒の作品とともに、生徒の活動の様子を写真で示している。</p> <p>○作品全体を大型図版で掲載し、作品全体を拡大したり、一部を原寸大で示したりしている。</p> <p>○「学びを支える資料」の中に、作家の紹介とともに発想・構想の手立てを掲載している。</p> <p>2 表現と鑑賞の関連を図った学習活動</p> <p>○一つの題材の中で、表現と鑑賞の活動を表すインデックスを掲載し、相互の学習の関連を示している。</p> <p>3 生活や社会の中の美術の働きを実感するための工夫</p> <p>○生活や社会とのつながりや美術の役割について考えるきっかけとなる写真等を掲載している。</p> <p>○デザインや工芸等の題材のはじめに「人の暮らしを豊かに」の特設ページを設け、生活の中の美術との関わりを具体的に示している。</p>

発行者 観点	9 開隆堂	38 光村	116 日文
	<p>ている。【1】【2・3】</p> <p>○3年間の学習をまとめとして、「美術の力を生かして社会とかかわる」の特設ページを設け、実例とともに社会における美術の役割等を示している。【2・3】</p>	<p>ている。【1】</p> <p>○「学習を支える資料」の中に、“地域と美術とのつながり”や“美術の力”と題したページを設け、社会における美術の働き等を示している。【2・3】</p>	<p>【1】</p> <p>○「社会に生きる美術の力」の特設ページを設け、異なる分野で活躍する3名の言葉を紹介し、美術の学びと生活や社会とのつながりを示している。【2・3下】</p>
内容の構成・配列・分量	<p>1 題材の配列</p> <p>○「美術1」、「美術2・3」の2冊で構成されている。</p> <p>○A4判よりも横に2cm広いA4ワイド判である。</p> <p>○題材を分野等に分けて配列している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「絵や彫刻など」</li> <li>【1】8頁分</li> <li>【2・3】11頁分</li> <li>・「デザインや工芸など」</li> <li>【1】9頁分</li> <li>【2・3】14頁分</li> <li>・「鑑賞」</li> <li>【2・3】14頁分</li> </ul>	<p>1 題材の配列</p> <p>○「美術1」、「美術2・3」の2冊で構成されている。</p> <p>○題材を分野等に分けて配列している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「絵や彫刻など」</li> <li>【1】9頁分</li> <li>【2・3】14頁分</li> <li>・「デザインや工芸など」</li> <li>【1】8頁分</li> <li>【2・3】8頁分</li> </ul>	<p>1 題材の配列</p> <p>○「美術1」、「美術2・3上」、「美術2・3下」の3冊で構成されている。</p> <p>○A4判よりも横に2cm広いA4ワイド判である。</p> <p>○題材を分野等に分けて配列している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「絵や彫刻など」</li> <li>【1】10頁分</li> <li>【2・3上】9頁分</li> <li>【2・3下】10頁分</li> <li>・「デザインや工芸など」</li> <li>【1】9頁分</li> <li>【2・3上】9頁分</li> <li>【2・3下】7頁分</li> </ul>

発行者 観点	9 開隆堂	38 光村	116 日文
内容の 表現・表記	<p>1 作品等についての示し方の工夫</p> <p><b>全本共通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材のメインタイトルの横に学習の目標の3本柱を示している。</li> <li>○美術1、美術2・3に分けている。</li> </ul> <p><b>美術1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目次には、絵や彫刻で学ぶこと（ピンク）、デザインや工芸で学ぶこと（水色）、学びの資料（薄緑）表現（黄土色）、鑑賞（紫）に分けて示している。また、目次と教科書に使われているマークについての解説を示している。</li> <li>○p 2、3 高村光太郎の作品を取り上げ作品の解説を表記している。</li> <li>○p 4『図画工作から美術へ』と表記している。</li> <li>○p 5～7が続きページになっており、「学びの地図 形と色彩の冒険に出よう！」に絵、彫刻、デザイン、工芸、鑑賞のそれぞれの授業風景の写真と解説を示している。</li> <li>○説明文書の出だしに「美術は、形と色彩で自分の世界を創造する学習です。」と表記している。</li> <li>○全体を通して、「学習のポイント」を呼びかけの形式で示している。</li> </ul>	<p>1 作品等についての示し方の工夫</p> <p><b>全本共通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材のメインタイトルの下に目標を示している。</li> <li>○美術1、美術2・3に分けている。</li> <li>○1 題材の学習活動に表現と鑑賞の活動を示すコメントがある。</li> </ul> <p><b>美術1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目次には、絵や彫刻など（ピンク）、デザインや工芸など（水色）、学習を支える資料（薄緑）に分けて示している。また、教科書の中で使われている主なマークの解説を示している。</li> <li>○キャラクター（中学生男女、解説する人物）が吹き出しで美術に関することを示している。</li> <li>○p 2～4が続きページになっており、谷川俊太郎氏の文章「うつくしい！」とともに、生徒が撮影した写真とコメント等を掲載している。</li> <li>○p 8、9「美術で学ぶこと」には、「中学校3年間で学習すること」、「教科書を活用しよう」、「ノートやスケッチブックを活用しよう」のテーマごとに、生徒の学習の様子と解説文、スケッチブック等を掲載している。</li> <li>○図画工作と美術のそれぞれの活動の様子、作品の写真と解説文を掲載している。</li> </ul>	<p>1 作品等についての示し方の工夫</p> <p><b>全本共通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材のメインタイトルの上にサブタイトルで活動や目的を示している。横に学びの目標の3本柱を示している。</li> <li>○美術1、美術2・3上、下に分けている。</li> </ul> <p><b>美術1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目次には、絵や彫刻など（水色）、デザインや工芸など（ピンク）、学習を支える資料（緑）に分けて示している。また、教科書のマークについて解説を示している。</li> <li>○p 2～4が続きページになっており、アニメの風景画と解説文を掲載している。</li> <li>○p 5～7が続きページになっており、「学びの言葉」では、シンガーソングライター松任谷由美の写真とメッセージを掲載している。</li> <li>○p 6、7「中学校美術の世界へようこそ」には、図画工作から中学校美術1～3年の概要を教科書に掲載し、生徒作品と生徒の制作活動の写真を示している。</li> <li>○生徒作品の下に見出しとどの教科書に掲載しているかを示している。</li> <li>○作品の写真に「造形的な視点」の吹き出しをつけ、コメントを示している。</li> </ul>

発行者 観点	9 開隆堂	38 光村	116 日文
	<p>《絵や彫刻など》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表現の題材と鑑賞の題材に分けて示している。</li> <li>○テーマの横に学習の目標として知・思・学の3つを示している。</li> <li>○生徒作品、作家の作品を取り上げ、制作風景とともに作者の言葉で示している。</li> <li>○絵や彫刻で学ぶことをそれぞれのテーマとして表記している。「見ることからの発見」「心ひかれる風景」「写し取る形」「人の姿・動き」「よみがえる材料」「生命力を感じて」等</li> <li>○鑑賞では伊藤若冲の世界を取り上げている。p25～p28 見開きページには、伊藤若冲の樹花鳥獣図屏風の全体及び一部原寸大の写真と解説を示している。</li> <li>○「私にとってつくること」では、4人の作家の作品と作家の言葉を示している。</li> </ul> <p>《デザインや工芸など》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○最初に学習の流れを提示し、生徒の活動ごとに写真等とコメントを示している。</li> <li>○社会、生活の中で使われているデザインや工芸を写真で取り上げ、作者の言葉も同時に掲載している。</li> <li>○デザインや工芸で学ぶ意図を表現している。「あったらいいなを形に」「形と色彩のメッ</li> </ul>	<p>《絵や彫刻など》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1題材に表現と鑑賞のページに分けて示している。</li> <li>○テーマの下に目標を示している。</li> <li>○生徒作品の写真、作品制作段階ごとの写真、制作風景の写真と各コメントを掲載している。</li> <li>○表現のページにも「鑑賞」と表記し、生徒作品、作家の作品の写真を掲載している。</li> <li>○鑑賞p19、20が材質の違う紙に印刷をしている。</li> <li>○p31～34見開きページには、俵屋宗達の風神雷神図屏風の写真を掲載している。また、閉じると蓮華王院三十三間堂の風神・雷神の像の写真を掲載している。</li> </ul> <p>《デザインや工芸など》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「デザインって何だろう？」では一日の流れを示し、それに関係するデザインされたものの写真とコメントを掲載している。</li> <li>○「生活をいろいろ文様」では、5枚4グループの文様の写真と解説を掲載している。また、文様の制作風景と作品の制作過程の写真とコメントを掲載している。</li> </ul>	<p>《絵や彫刻など》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1題材に表現と鑑賞について示している。</li> <li>○テーマの横に学びの目標3つを示している。</li> <li>○生徒作品・作家の作品と制作風景とともに、作者の言葉を掲載している。</li> <li>○「試しながら、発想をひろげよう」では、筆使いの写真とスケッチブックの写真と解説文を掲載している。</li> <li>○鑑賞の導入の「鑑賞との出会い 見方や感じ方を広げよう」では、作品と活動風景の写真を掲載している。</li> <li>○「美のタイムトラベル」のページに遮光器土偶の原寸大の写真と解説文を掲載している。</li> <li>○p34～37見開きページで尾形光琳の燕子花図と解説文を掲載している。閉じるとp32、33 俵屋宗達の風神雷神図屏風の写真と解説文を掲載している。</li> </ul> <p>《デザインや工芸など》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「デザインや工芸との出会い 人の暮らしを豊かに」では、「飾る」、「伝える」、「使う」の3つのグループに分けて、作品と制作風景の写真とコメントを示している。</li> <li>○「広がる模様の世界」日本・イギリス・ブラジルの伝統文様の写真、生徒作品、活動風景の写真と解説文を掲載している。</li> </ul>

発行者 観点	9 開隆堂	38 光村	116 日文
	<p>ページ「模様のデザイン」「ロゴマークで印象づける」「機能と美しさの調和」「紙でつくる」「木を暮らしに生かす」「祭りの造形」等</p> <p>《学びの資料》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○材料、用具の写真と制作中の写真と使い方の図とともに解説文を示している。</li> <li>○美術の制作活動、作品制作の段階ごとの写真を取り上げ、各技法の写真に解説文で示している。</li> <li>○p 62～64 続きページで、「色を学ぶ、色を知る」として色彩について季節の違う風景写真や色相環、色の組み合わせを示している。</li> <li>○p 65～67 続きページで美術館の外観の写真と紹介文と展示風景の写真を掲載している。</li> </ul> <p>美術2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○p 2～4 見開きになっている。</li> <li>○「探究と継承」のテーマで日本文化財とそれ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他教科とのつながりについて、作品の写真と解説文を掲載している。 p 37、43、45、53、55</li> <li>○生徒作品、工芸作品とそれらが使われている様子の写真及び作者の言葉を掲載している。</li> </ul> <p>《学習を支える材料と用具》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○材料、用具の使い方を写真とコメントで示している。</li> <li>○技法と用語を制作の様子の写真と解説で示している。</li> <li>○p 76～78 続きページで、「色や光の特徴を知ろう」として、モネの積みわらの作品の写真と色相環、色の組み合わせを示している。</li> <li>○美術館の活用方法を写真と解説文で示している。</li> <li>○最後のページに、フェルメールの地理学者の作品の写真を掲載している。</li> </ul> <p>美術2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○p 2～4 見開きになっている。「うつくしい！」谷川俊太郎の文を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○p 42～45 社会の中で使われている絵文字、ロゴ、シンボルマークの写真と解説文を掲載している。</li> <li>○p 48、49「わくわくコミュニケーション」生徒作品とコメントを掲載している。</li> </ul> <p>《学びを支える資料》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○材料、用具の写真と制作中の写真と使い方の図を解説文で示している。</li> <li>○技法と用語を制作の様子の写真と解説で示している。</li> <li>○p 70～72 続きページで、色彩の基本・仕組みについて、ゴッホの種まく人の作品の写真や食品の写真と色相環、色の組み合わせを示している</li> <li>○p 73～75 続きページである。</li> <li>・p 73 は日常の写真と美術の関係を解説文で示している。</li> <li>・p 74、75「美術館へ行こう」では、「なんだ?」「取り組み」「いろいろ」に分類し、美術館の写真と生徒の活動の写真と解説文で示している。</li> </ul> <p>美術2・3上、下</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○p 2～3 続きページになっている。上は、ゴッホ、モネの作品の一部を原寸大の写真、下</li> </ul>

発行者 観点	9 開隆堂	38 光村	116 日文
	<p>に携わっている人の仕事の様子を写真で取り上げ、それごとに解説文で示している。</p> <p>○ p 5 目次 1年と同様</p> <p>○ p 6、7 「暮らしに生きる美術」</p> <p>・落語家、保育士、パティシエ、鬼師の写真を掲載し、美術の授業との関わりを自身の言葉で示している。</p> <p>《絵や彫刻など》</p> <p>○作家、生徒の作品を取り上げ、作品解説と作家の言葉で示している。</p> <p>○スタイルの違う作品の写真を取り上げ、それぞれの表現について解説を示している。</p> <p>○表現することをテーマとして表記している。「想像の世界を表す」「形と色彩が織りなすイメージ」「版表現の可能性」「生命感あふれる表現」等</p> <p>○「風景が語るもの」「自分と向き合う」は各4ページ分使っている。生徒作品、作家作品と制作風景の写真を掲載している。</p> <p>○学習のポイントを示している。</p> <p>○ゴッホの自画像の一部を原寸大で示している。</p> <p>《鑑賞》</p> <p>○鑑賞学習の流れを3段階で解説している。</p> <p>○日本と世界の時代ごとの作品の写真を取り上げ、作品の解説を示している。</p> <p>○ p 41～44 見開きページで屏風絵を取り上げ、</p>	<p>・阿修羅像（興福寺 国宝）の全体像、正面（原寸大）と部分の写真と解説文を掲載している。</p> <p>○ p 5～7 を続きページ、p 5 目次 1年と同様</p> <p>《絵や彫刻など》</p> <p>○風景に思いを重ねて p 6～9</p> <p>・ p 6 パウル・クレーのニーゼン山の作品（原寸大）と実際の写真と解説文を掲載している。</p> <p>・表現、発想構想を写真とコメントで示している。</p> <p>・ p 8 制作段階の写真と制作風景の写真と解説文を掲載している。</p> <p>○レオナルドとその時代 p 10～p 15</p> <p>・最後の晩餐の部分の写真と解説文を掲載している。</p> <p>○北斎からゴッホへ p 24～29</p> <p>・ p 26 神奈川沖浪裏（原寸大）の写真を掲載している。</p> <p>・ゴッホの4枚の作品の写真と解説文を掲載している。</p> <p>○「ゲルニカ、明日への願い」 p 48～55</p> <p>・ p 49～52 見開きページにゲルニカの写真と解説文を掲載している。ページを閉じると、「ゲルニカ」を見る少年の写真を掲載している。</p>	<p>はアントニオ・ガウディのサクラダ・ファミリア聖堂の降誕のファサードの部分の写真と上下それぞれのテーマとコメントを掲載している。</p> <p>○生徒の作品と活動中の写真にコメントを示している。</p> <p>《絵や彫刻など》</p> <p>○ p 10、11 「瞬間の美しさを形に」では、一瞬の動きを示した彫刻作品の写真とコメントで示している。</p> <p>○「視点の冒険」では、いろいろな方向から見た写真と生徒作品にコメントを掲載している。</p> <p>○「動き出しそうな動物たち」では、彫刻の作品に作者の言葉を掲載している。</p> <p>○ p 17 「アイデアスケッチから発想を広げよう」では、生徒作品とコメントを掲載している。</p> <p>○上の p 26～29 見開きページで、p 26 写楽、p 27 歌麿の浮世絵の写真、p 28、29 に神奈川沖浪裏の原寸大の写真を掲載している。</p> <p>○ p 25 浮世絵の制作工程の写真と解説文を掲載している。</p> <p>○下の p 26～29 見開きページでは、p 26～28 がピカソのゲルニカの写真と女子中学生の</p>

発行者 観点	9 開隆堂	38 光村	116 日文
	<p>金と墨の表現について示している。</p> <p>《デザインや工芸など》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○社会、生活の中で見るデザインされたものの写真を取り上げ、解説文を掲載している。</li> <li>○生徒作品の写真を取り上げ、作者の言葉及び表現意図を示している。</li> <li>○題材に伝えたいことをテーマにしているものがある。「ピクトグラムとサイン計画」「ポスターで伝える」「誰にでもわかりやすく伝える」「パッケージで魅力を伝える」等</li> <li>○5つの題材 10 ページ分に伝統工芸の作品の写真と解説文を掲載している。</li> </ul> <p>《まとめ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○美術の力を生かして社会とかかわることをテーマで示している。</li> <li>○p 94～96 が続きページになっている。</li> <li>・ p 94、95「ゲルニカで伝えなかったこと」では、ゲルニカに関する資料の写真と解説文を掲載している。</li> <li>・ p 96「美術で世界と向き合う」では、池田学の作品と解説文を掲載している。</li> <li>・ p 97～100 が見開きページになっている。</li> <li>・ p 97、98 は池田学の作品の写真、p 99、100</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピカソとゲルニカに関係する写真と解説文を掲載している。</li> </ul> <p>《デザインや工芸など》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○鑑賞では、作品の写真と解説文を掲載している。表現では生徒の写真と制作の過程の活動写真とコメントを掲載している。</li> <li>○社会の中にあるデザインされたものの写真と解説文を掲載している。</li> <li>○分かりやすく情報を伝えるでは、ピクトグラムと解説文を掲載している。</li> <li>○「季節感のある暮らしを楽しむ」では、伝統工芸の作品と解説文を掲載している。</li> </ul> <p>《学習を支える材料と用具》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「発想を広げる」では、発想を広げるための4つ方法について、図、写真、スケッチ、イラストと解説文で示している。</li> <li>○制作活動について、使う用具と活動の様子の写真、図、解説文で示している。</li> <li>○制作方法を制作中の手元の写真と解説文で示している。</li> <li>○色の違いで見方が変わることを複数の写真とコメントで示している。</li> <li>○美術史年表 p 94～p 96 続きページで写真と</li> </ul>	<p>シルエットを掲載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○下の p 14、15 では、生徒の共同作品と制作風景、アイデアスケッチ、絵コンテと解説文を掲載している。</li> </ul> <p>《デザインや工芸など》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒、作家の作品と制作風景の写真と解説文を掲載している。</li> <li>○社会の中で使われているデザインされた作品、製品と実際に使われている写真と解説文を掲載している。</li> <li>○生徒作品と制作風景、学校内展示の写真と解説文を掲載している。</li> <li>○「心がほっとなごむもの」では、工芸品と生徒作品の写真を掲載している。</li> </ul> <p>《学びを支える資料》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○用具、材料の写真と制作中の写真と使い方の図を示し、解説文で示している。</li> <li>○技法と用語を制作工程の写真と解説文で示している。</li> <li>○p 60～p 63 美術史年表と時代ごとの美術作品の写真と解説文を掲載している。</li> <li>○「色彩の特徴を深く知る」日本の伝統色では、四季に合わせた日本の伝統色と名称を掲載している。</li> </ul>



発行者 観点	9 開隆堂	38 光村	116 日文
	<p>はダミアン・ハーストの作品と展示会場の写真を掲載している。</p> <p>《学びの資料》</p> <p>○作品制作に必要な技法と用具を写真と図で示している。</p> <p>○美術の歴史年表にその時代の作品の写真と解説文を示している。</p> <p>○最後のページに「未来に向かって」の文章を掲載している。</p>	<p>解説文で示している。</p> <p>○日本の伝統工芸 p 97～ p 99 続きページで全国各地の工芸品の写真と県名を掲示している。</p> <p>○最後のページに谷川俊太郎の「うつくしい！」の文章を掲載している。</p>	<p>○下の p 48、49 火焰型土器の原寸大の写真と解説文を掲載している。</p> <p>○下の最後のページの「あなたへ明日への巣立ち」では、桜と鉄道の写真、文章を掲載している。</p>
言語活動の 充実	<p>1 表現及び鑑賞の活動における言語活動の工夫</p> <p><b>美術 1</b></p> <p>○美術作品、生徒作品とともに作者の言葉を示している。</p> <p>○デザイナーの仕事について、デザイナーへのインタビューを載せている。 p 34、35</p> <p>○作品と作家の写真とともに作家自身の言葉を載せている。 p 30、31</p> <p>○「デザインや工芸で学ぶこと」の学習の流れでは、仲間との意見交換の仕方を示している。 p 32</p> <p>○クラスのシンボルマークをデザインしようでは、仲間との話し合いでの言葉やスケッチのまとめ方を示している。 p 41</p> <p>○「美術の用語」解説が 10 箇所ある。</p> <p><b>美術 2・3</b></p>	<p>1 表現及び鑑賞の活動における言語活動の工夫</p> <p><b>全本共通</b></p> <p>○谷川俊太郎の「うつくしい！」の文章を掲載している。</p> <p><b>美術 1</b></p> <p>○ p 2～4 写真とともに生徒の書いたコメントを掲載している。</p> <p>○作品制作の段階で、生徒同士が話し合っている写真とコメントを掲載している。</p> <p>○作品の感想をイラストと吹き出しのコメントで示している。</p> <p>○生徒の作品の解説を作者の言葉で示している。</p> <p><b>美術 2・3</b></p> <p>○作家の発想・構想について作家自身の文章で示している。</p> <p>○ p 58 作品制作の段階で、生徒同士が話し合っ</p>	<p>1 表現及び鑑賞の活動における言語活動の工夫</p> <p><b>全本共通</b></p> <p>○学びの言葉と題して、著名人の文章を掲載している。</p> <p>○作品の側に作者の言葉を掲載している。</p> <p><b>美術 1</b></p> <p>○発想、構想を練る時に、考えたことのアイデアスケッチと生徒の文章を実際のスケッチブックの写真で示している。</p> <p>○「わくわくコミュニケーション」の p 49 生徒作品とともに生徒の書いた文章の写真を掲載している。</p> <p><b>美術 2・3 上、下</b></p> <p>○上 p 6、7 生徒が撮った写真に生徒自身が書いたコメントを掲載している。</p> <p>○生徒の話し合いの様子を写真で示している。</p> <p>○ p 44、45 生徒書いた文章の写真を掲載して</p>

発行者 観点	9 開隆堂	38 光村	116 日文
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ p 64～73 デザインで「伝える」をテーマにしている。</li> <li>○ 「暮らしに生きる美術」として、落語家、保育士、パティシエ、鬼師 4 名のインタビューの文章を掲載している。</li> <li>○ 「校内の安全を考えよう」では、仲間と調査し、考え、話し合う過程を写真で示している。</li> <li>○ 最後のページに「未来に向かって」の文章を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ している写真とコメントを掲載している。</li> <li>○ 生徒の作品の解説を作者の言葉で示している。</li> <li>○ p 59 国語とのつながりとして「コピーを考える」では、ポスターに入る短い言葉について解説文と写真で示している。</li> <li>○ 最後のページに谷川俊太郎の「うつくしい！」の文章を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いる。</li> <li>○ 上 p 47 メーカーの会議の様子を写真で示している。</li> <li>○ 下 p 39 生徒が発表をしている写真を掲載している。</li> <li>○ 下 p 46、47 デザイナーのインタビューを3つの見出しに分けて文章で示している。</li> <li>○ 下 p 58、59 「社会に生きる美術の力」3名の著名人の文章を掲載している。</li> <li>○ 最後のページに「あなたへ 明日への巣立ち」の文章を掲載している。</li> </ul>